

モリト株式会社

2023年11月期 第1四半期決算概要

東証プライム 証券コード 9837

2023年4月

あたりまえに、新しさ。 MORITO

CONTENTS

- 1 会社概要
- 2 中長期方針
- 3 第8次中期経営計画
- 4 2023年11月期1Q 業績
- 5 2023年11月期1Q 事業の概況
- 6 事業トピックス
- 7 株主還元策

1

会社概要

モリトグループの価値観

創業理念

積極・堅実

経営理念

パーツでつなく、あなたとつながる、未来につなげる

経営ビジョン

**存在価値を創造する、
あたらしい「モリトグループ」の実現**

会社概要

● 1908年創業

- ・大阪にてハトメ・ホックの仲買商として開業
- ・その後、マジックテープ®など服飾の付属品、自動車内装部品等の販売を中心に拡大

● 製造機能も併せ持つメーカー的機能を持つ商社

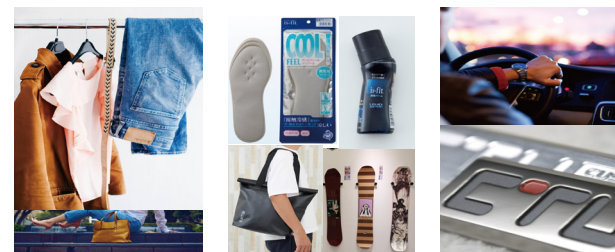
- ・企画・開発から製造に加え、卸・流通までを一貫して手掛ける専門商社
- ・世界に19拠点展開

● 3つの事業を展開

- ・アパレル関連、プロダクト関連、輸送関連が事業の柱
- ・自社生産30%、調達70%ほどの構成



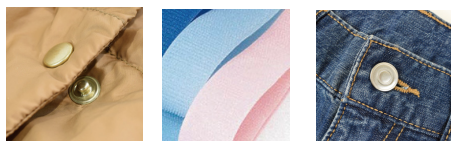
※ハトメ：靴・衣類などに紐を通す穴に取り付ける環状の金具



事業別詳細

アパレル関連事業

<取扱い商品例>



ホック マジックテープ® ボタン



テープ ハトメ・靴紐 自社ブランド

<活用例>

カジュアルウェア・シューズ
スポーツウェア・シューズ
作業服・シューズ
メディカルウェア、ベビーウェア
フォーマルウェア・シューズ、バッグ

プロダクト関連事業

<取扱い商品例>



マジックテープ® 樹脂パーツ インソール



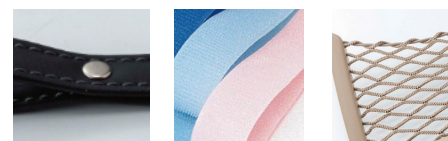
ストラップ スケートボード・スノーボード・サーフィン 自社ブランド

<活用例>

インソール・シューズ商品
カメラ・PCケース等映像機器関連商品、
サポーター、安全関連商品、教具・文具
スケートボード・サーフィン等
アクティブスポーツ関連商品

輸送関連事業

<取扱い商品例>



ホック マジックテープ® ネット



エンブレム トランクフロアボード ドアアームレスト

<活用例>

自動車内装部品
鉄道・新幹線内装部品
航空機内装部品

(2022年11月期)

モリトの強み

● 流行に左右されない、生活必需品向けのビジネスが多数

日常生活に欠かせないもののパーツを扱っているため、流行・景気に左右されにくく、継続的に販売ができるビジネスが多数。

● ポートフォリオが分散して安定した業績

アパレル・プロダクト・輸送関連の3つの事業を柱に、ワールドワイドに事業を展開。オイルショックやリーマンショック、新型コロナウイルス感染拡大の影響などがあっても、赤字にならない安定した業績を維持。

● ニッチ分野をターゲットに、多彩なアイテムで高シェアをマーク

各業界分野でシェア率の高い商品多数。
金属ホックは日本で1位、世界でも1位、2位を争う。

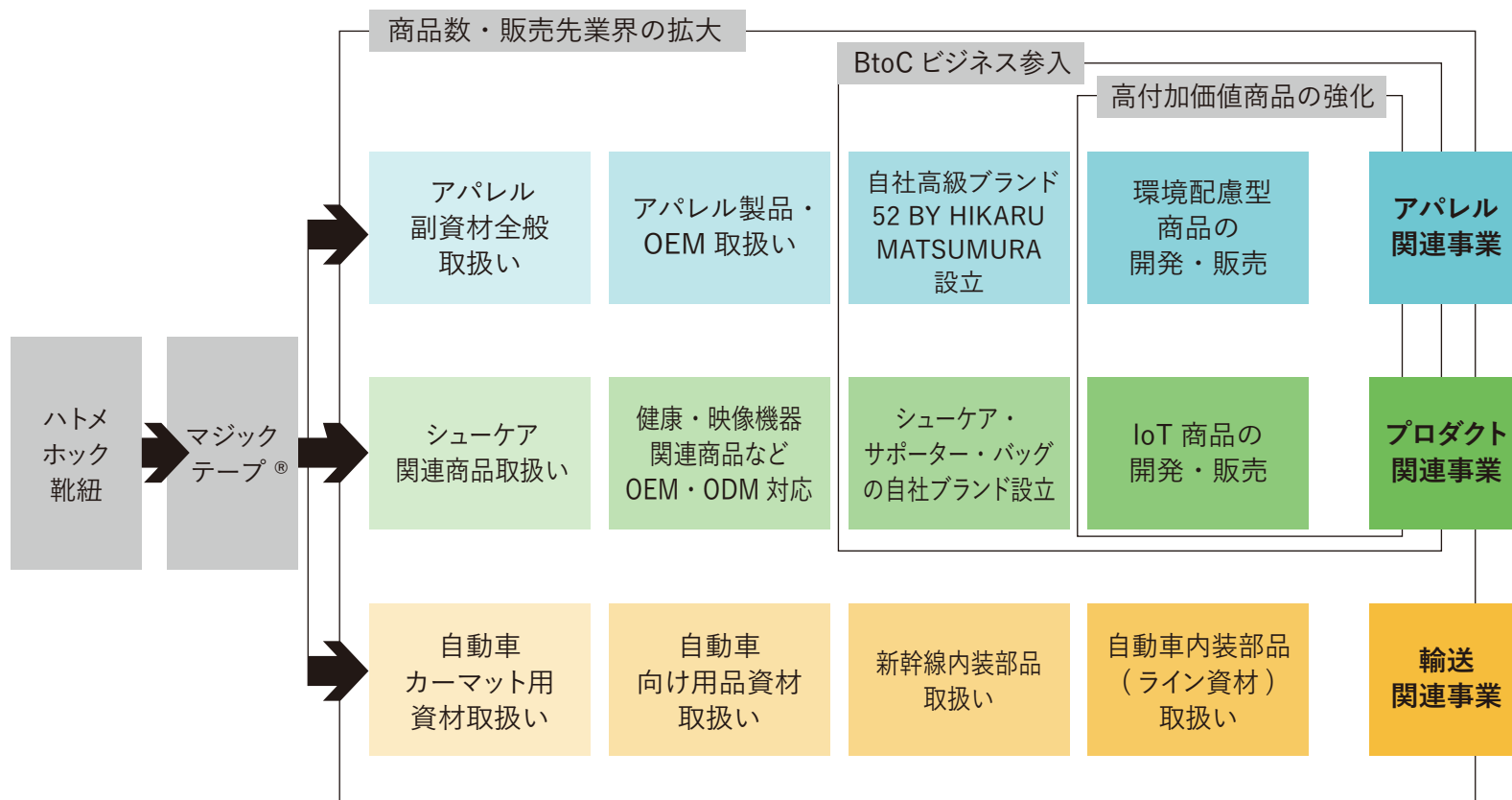
● 製造・調達・販売をグローバルに展開

自社拠点以外にも、協力工場や代理店が世界各地にあり、あらゆる顧客ニーズにできるだけ近くで対応。

2

中長期方針

グローバルニッチトップを目指した過去の取り組み



グローバルニッチトップを目指した過去取り組み

グローバル ネットワーク 構築

販売・調達

香港、アメリカ、オランダ、中国(上海)、タイ、ミャンマー、メキシコ

製 造

中国(深セン)、アメリカ(ジョージア州)、ベトナム

M&A

スコーヴィル(アメリカ)、マテックス(日本)、マニューバーライン (日本)

収益力強化

- ・グローバル品質保証体制の構築
- ・自社物流拠点の設立
- ・持株会社体制への移行
- ・事業会社モリトジャパンの分割

管理体制の強化

- ・ダイバーシティ・働き方改革
- ・キャリア採用等人事戦略

中長期方針 モリトが目指す姿

小さなパーツで世界を変え続ける、グローバルニッチトップ企業

第 8 次
中期経営計画

事業戦略

- BtoC 市場への参入・強化
- 各市場のグローバルシェア No.1 へ
- 経営・製造・調達の現地化、新規拠点設立
- 製造会社への設備投資、生産効率化
- M&A の実施
- 高付加価値商品（安心・安全・健康・環境配慮の取り組み）

コーポレート戦略

- IT 技術を活用した製造・業務・営業活動支援
- 運用・調達マネジメント強化による健全な財務体質の構築
および資本効率の改善
- SDGs を意識した企業経営

2020 年～
2021 年

コロナ禍における
事業体制構築

- 経費の見直し
- 収益性の強化
- 不採算事業の見直し

3

第8次中期経営計画

第8次中期経営計画（～2026年11月期）

2023年1月に、第8次中期経営計画の内容を一部変更

主な変更ポイント

① サステナビリティ方針の策定

▶ <https://www.morito.co.jp/sustainability/>

② 資本政策の変更

企業活動に必要な資金を長期的な視点で安定的かつ効率的に調達運用するため、偏りのない安定的な財務資本構成を構築する

<施策>

- (1) 中長期的な資本効率(ROE)の向上 → 効率的経営の実践
- (2) 業績連動性に安定性も付加した株主還元 → 適切な利益分配
- (3) 資産効率の改善 → BSの圧縮とCF創出および資金の積極投資
- (4) 資本構成の適正化 → 財務レバレッジなどの活用

第8次中期経営計画（～2026年11月期）

2023年1月に、第8次中期経営計画の内容を一部変更

主な変更ポイント

③ 株主還元策の変更

投資案件および財務状況を勘案の上、下記の「利益配分に関する基本方針」のもと決定
(2023年11月期より)

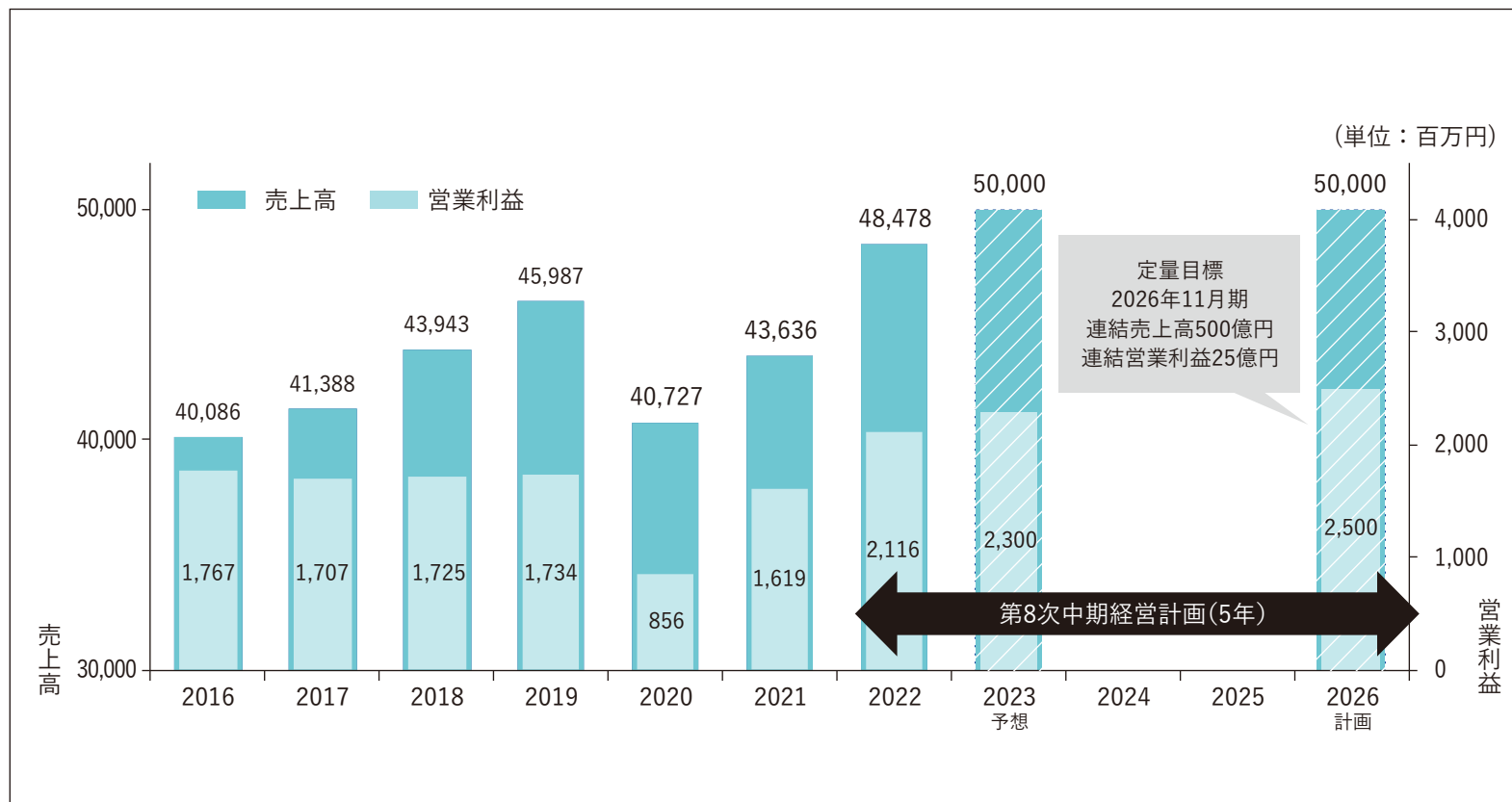
- ・安定的かつ継続的配当の実現
- ・親会社株主に帰属する連結当期純利益に対する連結配当性向50%以上
- ・連結自己資本配当率(DOE) 目標4.0%

ただし、特別な損益等の特殊要因により税引き後の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度につきましてはその影響を考慮し配当額を決定いたします。

第8次中期経営計画 定量目標（～2026年11月期）

2022年度～2026年度で、売上高500億円、営業利益25億円を定量目標として定める。

※ 売上高・営業利益共に目標数値に早期達成した場合は、見直しを実施。



4

2023年11月期1Q 業績

2023年11月期1Q ハイライト

- 原材料の価格高騰、海上輸送の遅れや運送費の高騰に加え、欧米・中国における消費の減速による需要の停滞
- 半導体不足は回復の兆しが見えたものの、1Qは継続
- 価格交渉による売上原価率改善、高付加価値商品の販売増加により売上総利益率が大幅に改善
- 1Qの売上高・営業利益・経常利益・当期純利益が、四半期開示開始以来、過去最高

2023年11月期1Q 通期業績サマリー

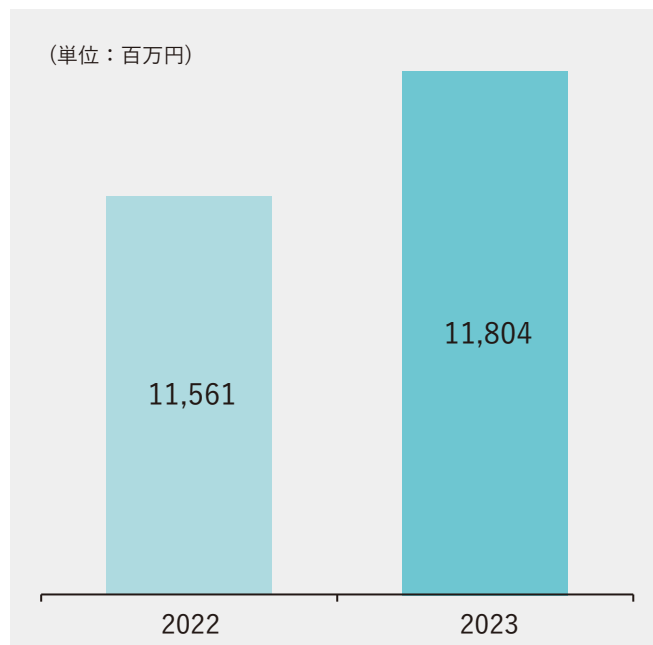
(単位：百万円)

	前 期	当 期	増 減	前 期 比
売上高	11,561	11,804	+243	+2.1%
売上総利益	3,058	3,232	+174	+5.7%
売上総利益率	26.5%	27.4%		
経費	2,448	2,613	+165	+6.8%
経費率	21.2%	22.1%		
営業利益	610	619	+9	+1.5%
営業利益率	5.3%	5.2%		
経常利益	655	661	+6	+0.9%
経常利益率	5.7%	5.6%		
当期純利益	449	516	+67	+14.9%
当期純利益率	3.9%	4.4%		

2023年11月期1Q 売上高

売上高:11,804百万円 前年同期比: +243百万円(+2.1%)

日本セグメントの増加・欧米での輸送関連事業の回復により、増加。



日 本 8,502 百万円
前年同期比 +590 百万円 (+7.5%)

アジア 1,719 百万円
前年同期比 -493 百万円 (-22.3%)

欧 米 1,582 百万円
前年同期比 +146 百万円 (+10.2%)

2023年11月期1Q 四半期別売上高の推移

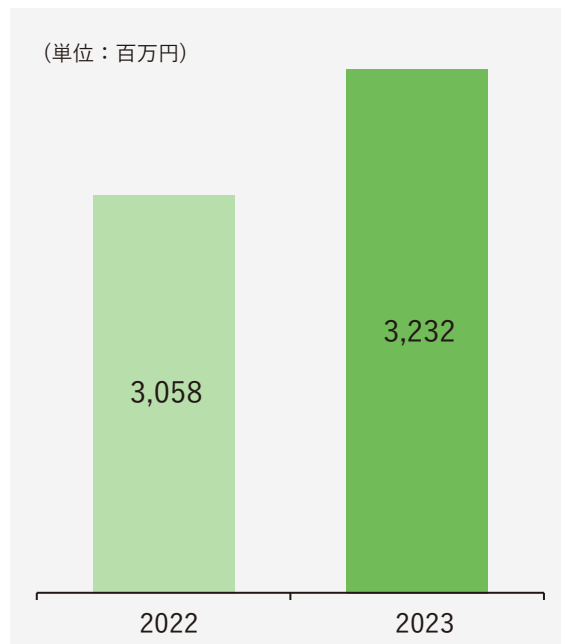
1Qとしては順調な滑り出し。四半期開示開始以来、過去最高の売上高。



2023年11月期1Q 売上総利益

売上総利益:3,232百万円 前年同期比: +174百万円(+5.7%)

売上高の増加・売上総利益率の改善により増加。

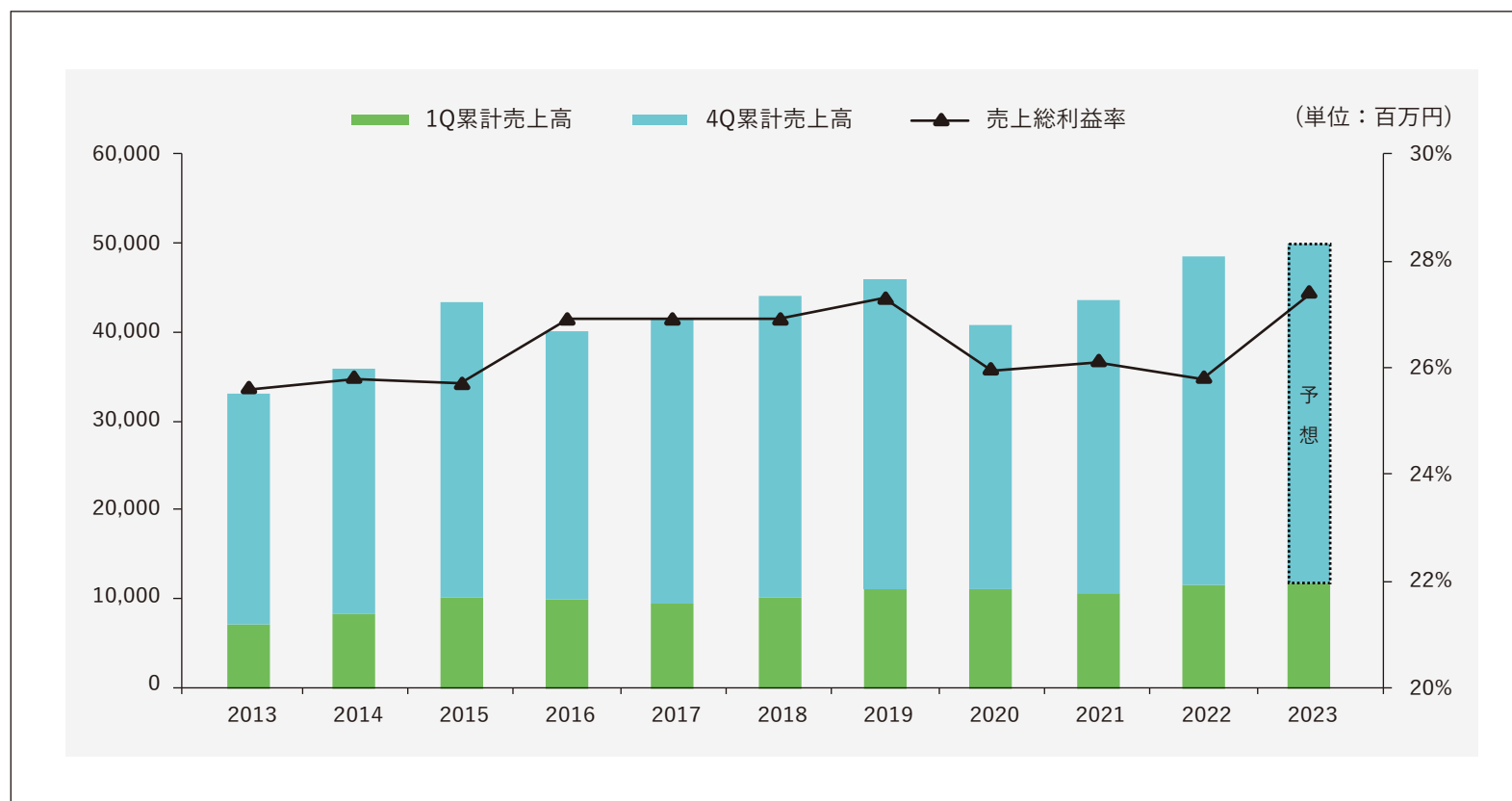


(単位: 百万円)

	前 期	当 期	増 減	前年比
売上高	11,561	11,804	+243	+2.1%
売上総利益	3,058	3,232	+174	+5.7%
売上総利益率	26.5%	27.4%		
経 費	2,448	2,613	+165	+6.8%
営業利益	610	619	+9	+1.5%
経常利益	655	661	+6	+0.9%
当期純利益	449	516	+67	+14.9%

2023年11月期1Q 売上高・売上総利益の推移

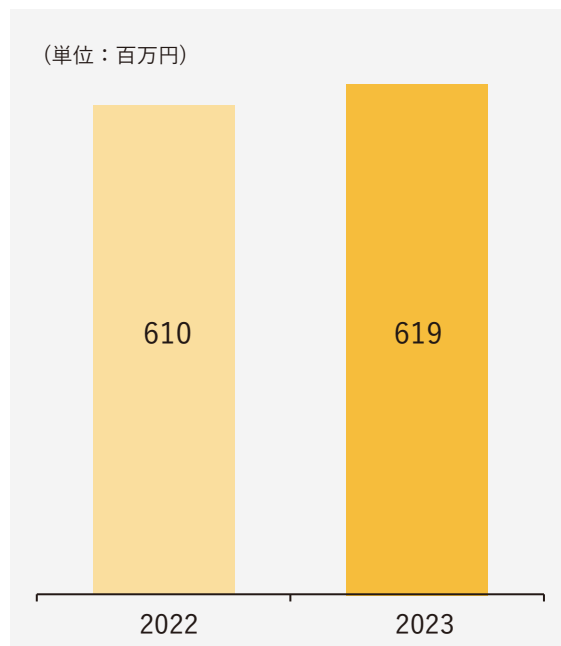
価格交渉による売上原価率の改善、高付加価値商品の販売増加により、売上総利益率が大幅に改善。



2023年11月期1Q 営業利益

営業利益:619百万円 前年同期比: +9百万円(+1.5%)

売上総利益の増加により増加。



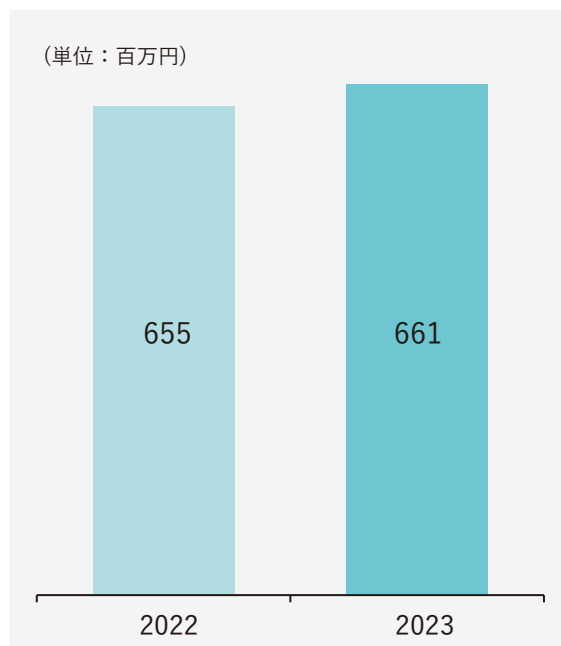
(単位: 百万円)

	前 期	当 期	増 減	前年比
売上高	11,561	11,804	+243	+2.1%
売上総利益	3,058	3,232	+174	+5.7%
経 費	2,448	2,613	+165	+6.8%
営業利益	610	619	+9	+1.5%
営業利益率	5.3%	5.2%		
経常利益	655	661	+6	+0.9%
経常利益率	5.7%	5.6%		
当期純利益	499	516	+67	+14.9%
当期純利益率	3.9%	4.4%		

2023年11月期1Q 経常利益

経常利益:661百万円 前年同期比: +6百万円(+0.9%)

営業利益の増加により増加。



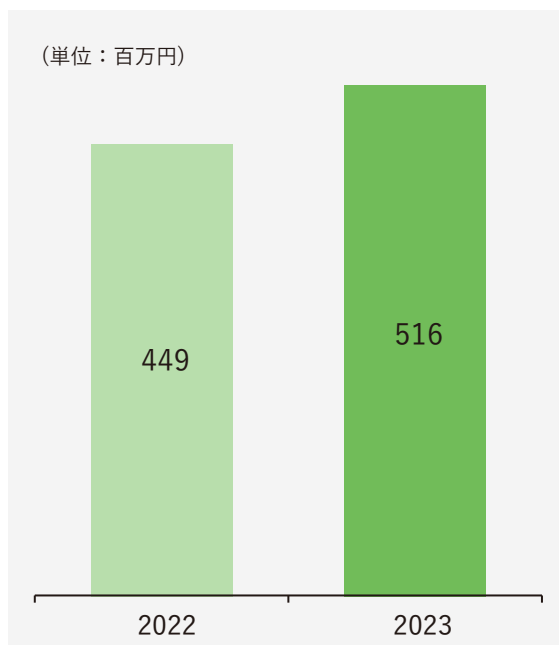
(単位: 百万円)

	前 期	当 期	増 減	前年比
売上高	11,561	11,804	+243	+2.1%
売上総利益	3,058	3,232	+174	+5.7%
経 費	2,448	2,613	+165	+6.8%
営業利益	610	619	+9	+1.5%
営業利益率	5.3%	5.2%		
経常利益	655	661	+6	+0.9%
経常利益率	5.7%	5.6%		
当期純利益	499	516	+67	+14.9%
当期純利益率	3.9%	4.4%		

2023年11月期1Q 当期純利益

当期純利益:516百万円 前年同期比: +67百万円(+14.9%)

投資有価証券の売却など、特別利益の増加により増加。



(単位: 百万円)

	前 期	当 期	増 減	前期比
売上高	11,561	11,804	+243	+2.1%
売上総利益	3,058	3,232	+74	+5.7%
経 費	2,448	2,613	+165	+6.8%
営業利益	610	619	+9	+1.5%
経常利益	655	661	+6	+0.9%
経常利益率	5.7%	5.6%		
当期純利益	449	516	+67	+14.9%
当期純利益率	3.9%	4.4%		

2023年11月期1Q 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022 4Q	2023 1Q
資産の部		
流動資産	30,481	28,924 (-1,557)
固定資産	19,790	19,348 (-442)
資産合計	50,271	48,272 (-1,999)

	2022 4Q	2023 1Q
負債の部		
流動負債	9,309	7,958 (-1,351)
固定負債	4,278	4,231 (-47)
負債合計	13,587	12,189 (-1,398)
純資産の部		
株主資本	31,860	31,933 (+73)
その他の 包括利益累計額	4,768	4,101 (-667)
新株予約権	55	48 (-7)
純資産合計	36,684	36,083 (-601)
負債純資産合計	50,271	48,272 (-1,999)

自己資本比率 74.6%(2022年4Q 72.9%)

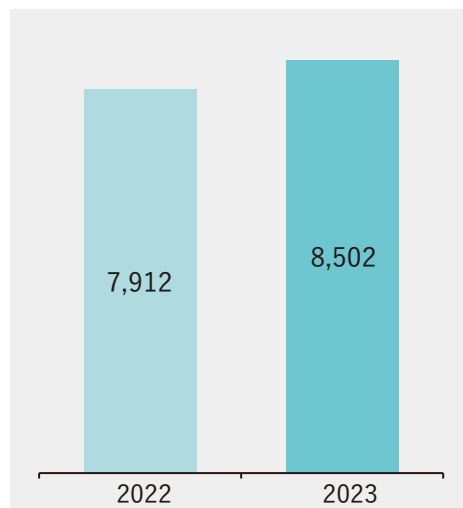
5

2023年11月期1Q 事業の概況

2023年11月期1Q 地域別売上高

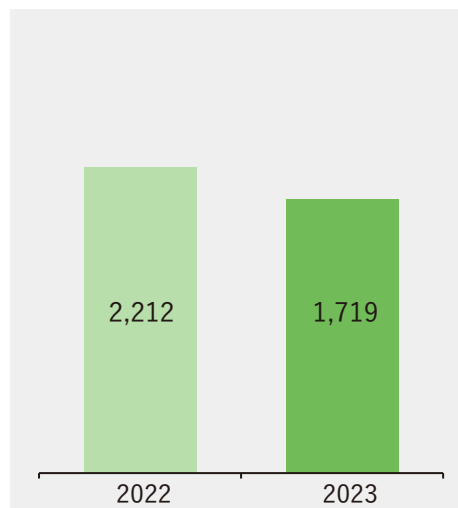
(単位：百万円)

日 本



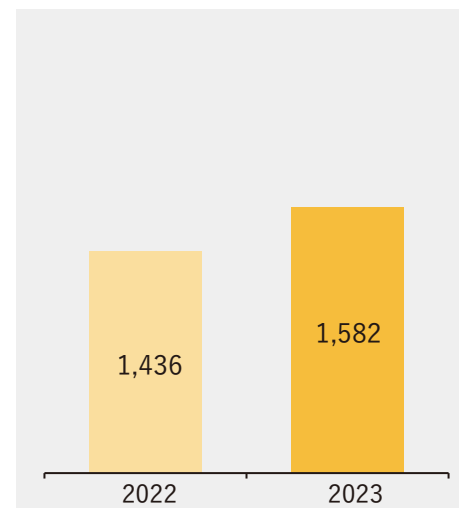
前年同期比 +590百万円
(+7.5%) ↑

アジア



前年同期比 -493百万円
(-22.3%) ↓

欧 米



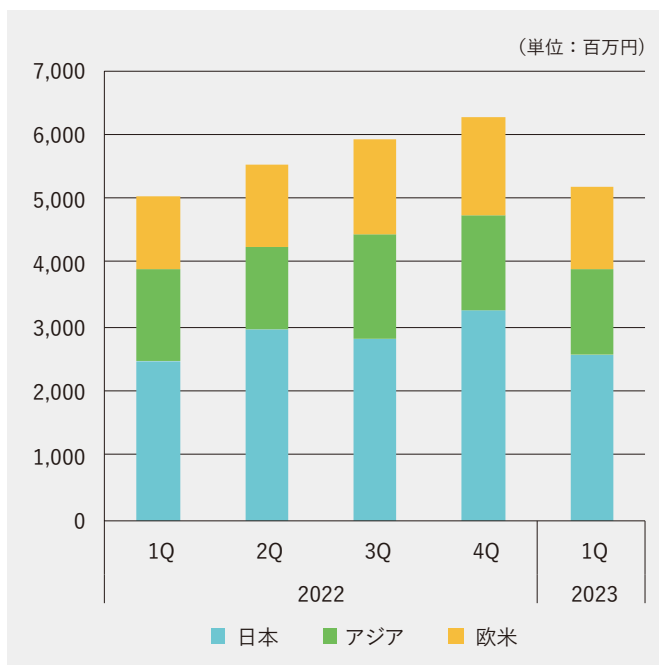
前年同期比 +146百万円
(+10.2%) ↑

2023年11月期1Q アパレル関連事業売上高

売上高:5,158百万円 前年同期比: +116百万円(+2.3%)

スポーツシューズ向け付属品が好調。

アジア・欧米において、消費の減速による過剰在庫・需要停滞の傾向あり。



日 本

- ・作業服向け付属品が増加
- ・スポーツシューズ向け付属品が増加

アジア

- ・中国・香港でのベビーウェア向け付属品が増加
- ・ベトナムでのスポーツシューズ向け付属品が増加
- ・中国・香港での欧米向けカジュアルウェア・作業服関連付属品が減少

欧 米

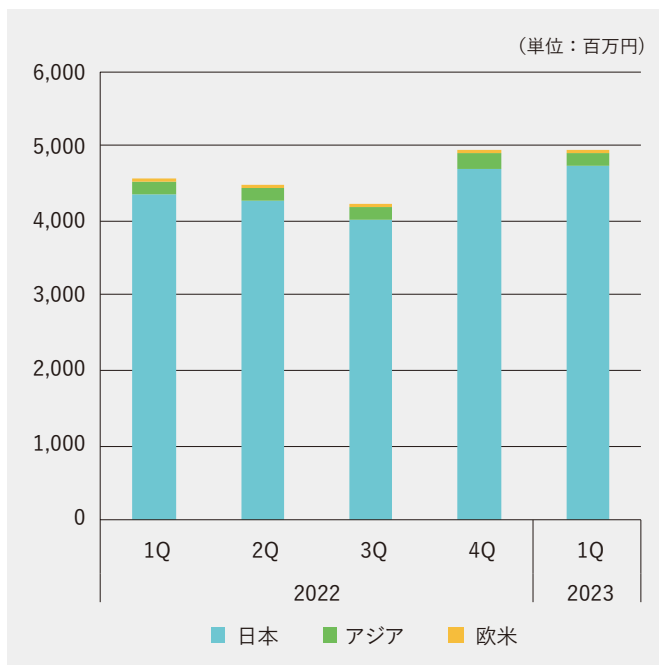
- ・カジュアルウェア向け付属品が減少
- ・レジャー関連商品向け付属品が増加

2023年11月期1Q プロダクト関連事業売上高

売上高:4,920百万円 前年同期比: +365百万円(+8.0%)

国内向けの需要は継続。

冬の時期の降雪が追い風となり、スノーボード関連商品が増加。



日本

- ・医療機器関連商品が増加
- ・均一価格小売店向け商品が増加
- ・スノーボード・アウトドア関連商品が増加
- ・厨房機器レンタル・販売・清掃事業が増加

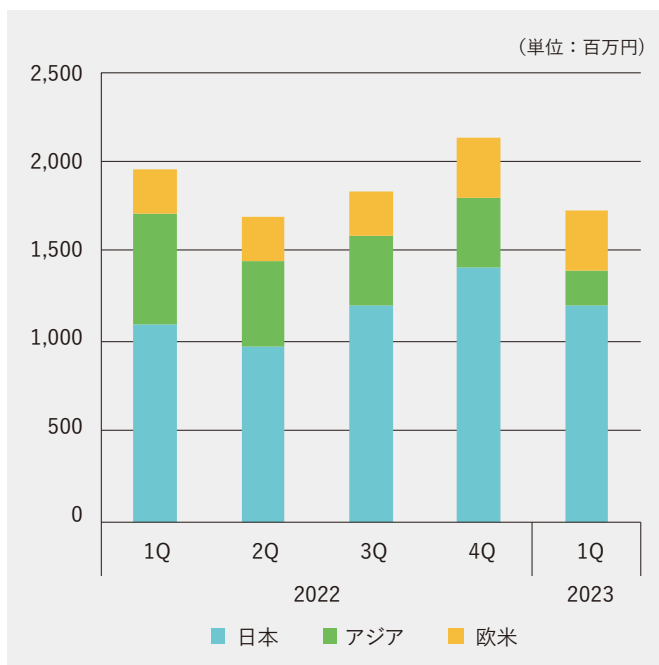
アジア

- ・昨年と同水準

2023年11月期1Q 輸送関連事業売上高

売上高:1,725百万円 前年同期比:-238百万円(-12.1%)

足元では半導体不足の影響が改善傾向。ただし中国では、半導体不足に加え、ゼロコロナ政策の影響もあり。



日本

- ・日系自動車メーカー向け自動車内装部品が増加

アジア

- ・中国での日系自動車メーカー向け自動車内装部品が減少

欧米

- ・日系自動車メーカー向け自動車内装部品が増加

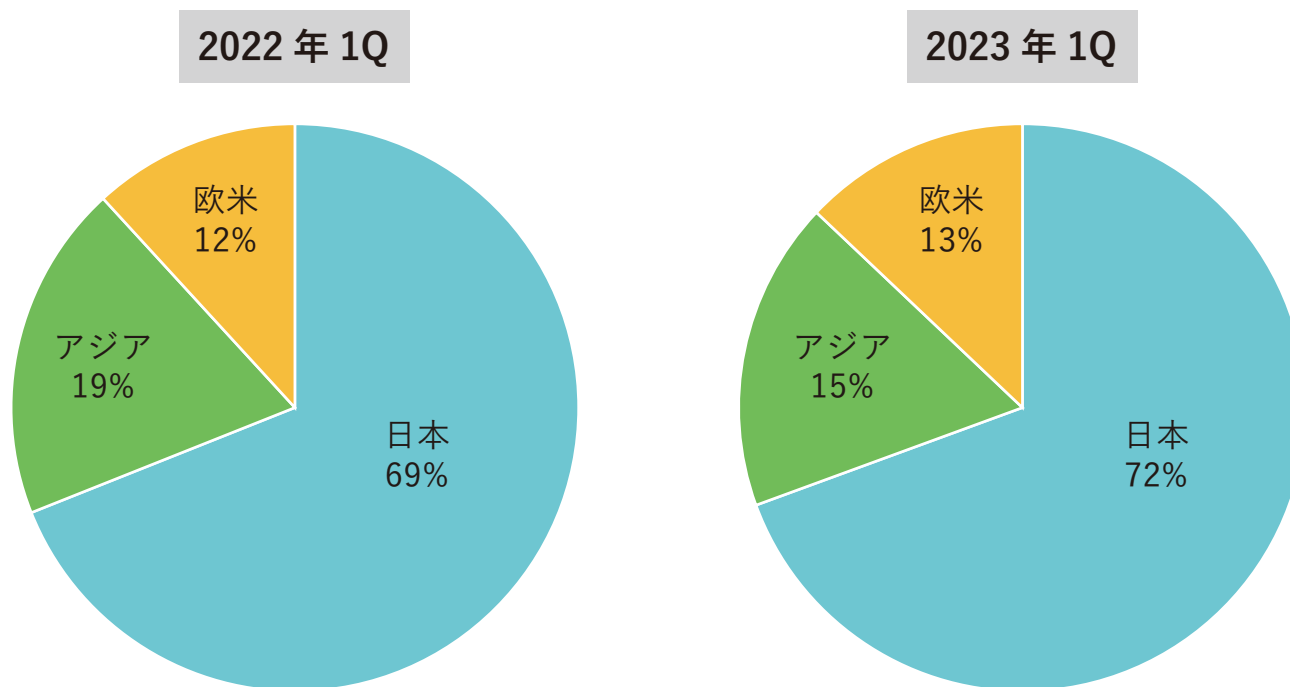
2023年11月期1Q 地域別売上高(四半期別)

(単位：百万円)

2023年度 実績				
	1Q	構成比	増減額	増減率
日本	8,502	72.0%	+590	+7.5%
アジア	1,719	14.6%	-493	-22.3%
欧米	1,582	13.4%	+146	+10.2%
合計	11,804	100.0%	+243	+2.1%

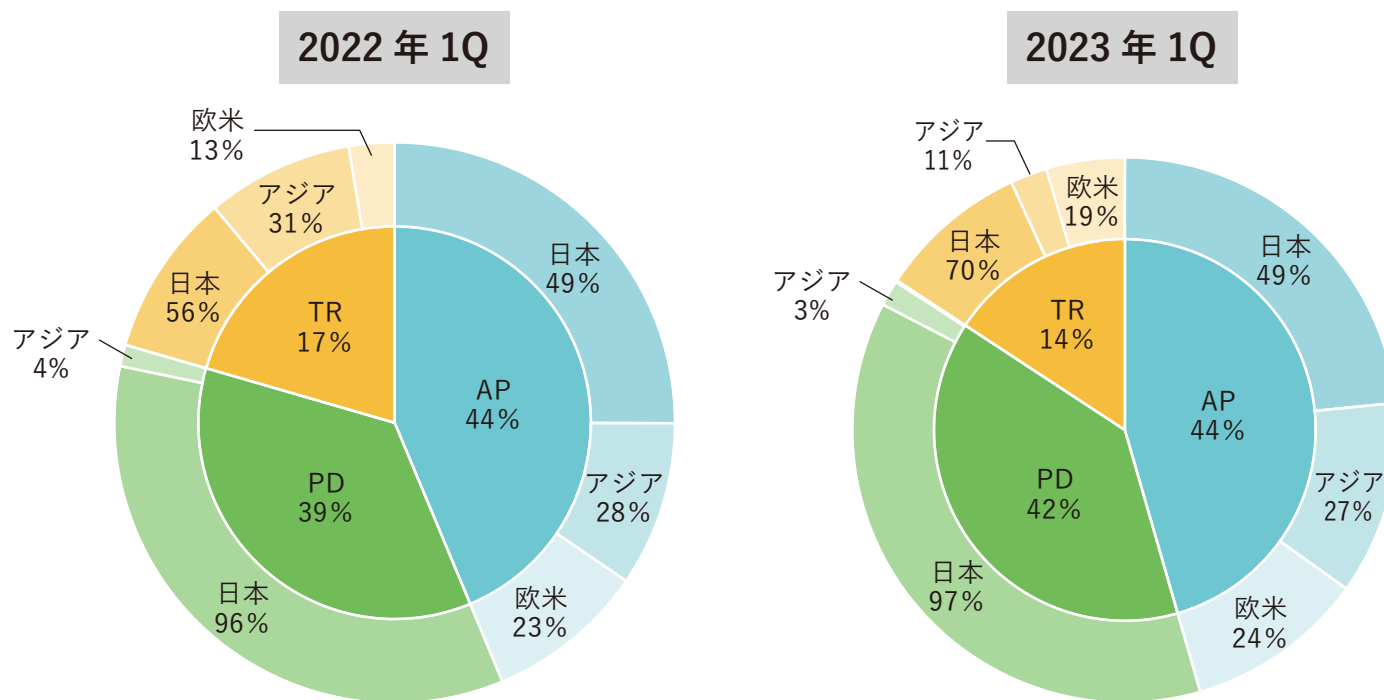
2022年度 実績								
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	構成比	増減額	増減率
日本	7,912	8,196	8,031	9,377	33,516	69.1%	+3,287	+10.9%
アジア	2,212	1,885	2,180	2,063	8,340	17.2%	+286	+3.6%
欧米	1,436	1,564	1,755	1,866	6,621	13.7%	+1,268	+23.7%
合計	11,561	11,646	11,965	13,306	48,478	100.0%	+4,842	+11.1%

2023年11月期1Q 地域別 売上構成



国内の需要が堅調に推移した一方、
欧米・中国における消費の減速を受け、構成比に若干の変動あり。

2023年11月期1Q 地域別×事業別 売上構成



回復の兆しが見えたものの、半導体不足は1Q時点では継続。

2023年11月期1Q 計画進捗について

1Qの進捗としては想定どおり。

	2023年11月期 1Q実績	2023年11月期 業績予想	進捗度
売上高	11,804	50,000	23.6%
営業利益	619	2,300	26.9%
営業利益率	5.2%	4.6%	
経常利益	661	2,450	27.0%
経常利益率	5.6%	4.9%	
当期純利益	516	1,800	28.7%
当期純利益率	4.4%	3.6%	

6

事業トピックス

環境への取り組み Rideeco(リデコ)

廃漁網を活用した資材を使った商品開発・販売を継続して注力。
レクサスコレクション春夏2023にて販売中のスマートフォンポシェットに、
廃漁網を活用した生地が採用。アパレル以外の業界でも販売を拡大中。



LEXUS COLLECTION 2023 SPRING / SUMMER

国内外展示会への出展

Rideecoの活動・開発した環境配慮型の商品を広めるため、国内外の展示会に多数参加。



NEW ENERGY TOKYO
<https://new-energy.ooo/>



The NW Materials Show2023
<https://americanevents.com>



2023AAP展示会 CONNECT&SPREAD
<http://www.aap-net.com/>

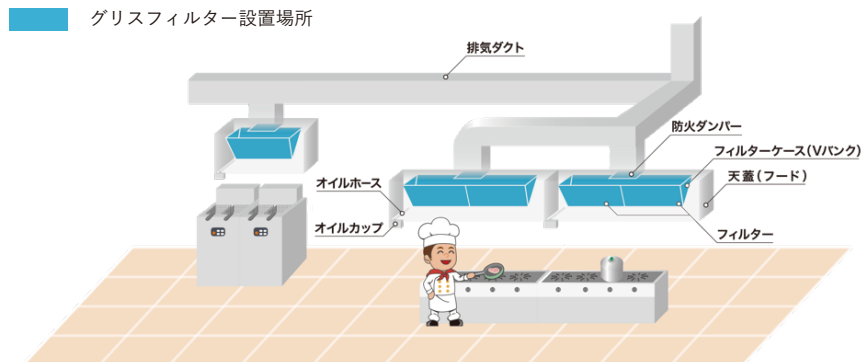
グループ会社紹介 エース工機株式会社（プロダクト関連事業）

飲食店の厨房の換気に使われる、グリスフィルターのレンタルサービスを展開し、国内トップクラスのシェア。全国にフィルターの交換・配送・洗浄を実施。
厨房排気設備清掃事業も実施中。施設内での快適環境の実現と、火災リスクの軽減に寄与。
<https://www.ace-kouki.co.jp/index.html>



グリスフィルター

飲食店などの厨房の排気経路の入口部に設置されるフィルター。
ダクトの油汚れを抑え、火災を抑制。



導入店舗数

日本の飲食店の数は約62万店舗※。
まだまだ成長の余地があります！

約 **18,000** 店舗

※「総務省 平成26年度 経済センサス 基礎調査」調べ

所有枚数

すべてのフィルターを平積みすると
約3,400m 富士山8合目付近です。
縦積みすると約48.5km 成層圏付近です。

約 **137,000** 枚

洗浄枚数/月

一日で4,500枚ものフィルターを
きれいに洗浄しています。

約 **101,000** 枚

グループ会社紹介 エース工機株式会社（プロダクト関連事業）

最先端の洗浄設備を備えた洗浄工場を各拠点に完備。

工場排水の汚染物質を効率よく除去し、環境保全に貢献。

2022年には、販売拡大のため神奈川県にも新たにサービスセンターを設立。



自社工場設備

自動制御のクレーンにより、フィルター洗浄・乾燥を自動化

環境に配慮された施設です

エース工機は「洗浄工場の省エネ」・
「フィルターの洗浄水の再利用」・
「廃水の適正処理」を通じてSDGsの
目標達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



52 BY HIKARUMATSUMURA (アパレル関連事業)

デザイン性のある高価格帯のバッグを販売するオリジナルブランド。

中国などアジア圏からの購入も拡大し、インバウンド需要に期待。

ライブ配信による販売なども実施。

<https://52byhikarumatsumura.com/>



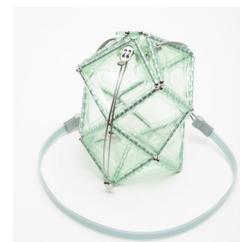
<POP-UP STORE>



阪急うめだ本店



<コラボ商品>



Aquascutum WHITE LABEL



LUNASOL

7

株主還元策

利益配分に関する基本方針

2023年11月期より、基本方針を変更。

株主に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつと位置付け、投資案件および財務状況（純資産等）を勘案の上、下記の方針に基づき、配当額を決定。（2023年11月期～）

安定的かつ
継続配当の実現

業績状況等により
親会社株主に帰属する
当期純利益に対する

配当性向は
50%以上を
基準※

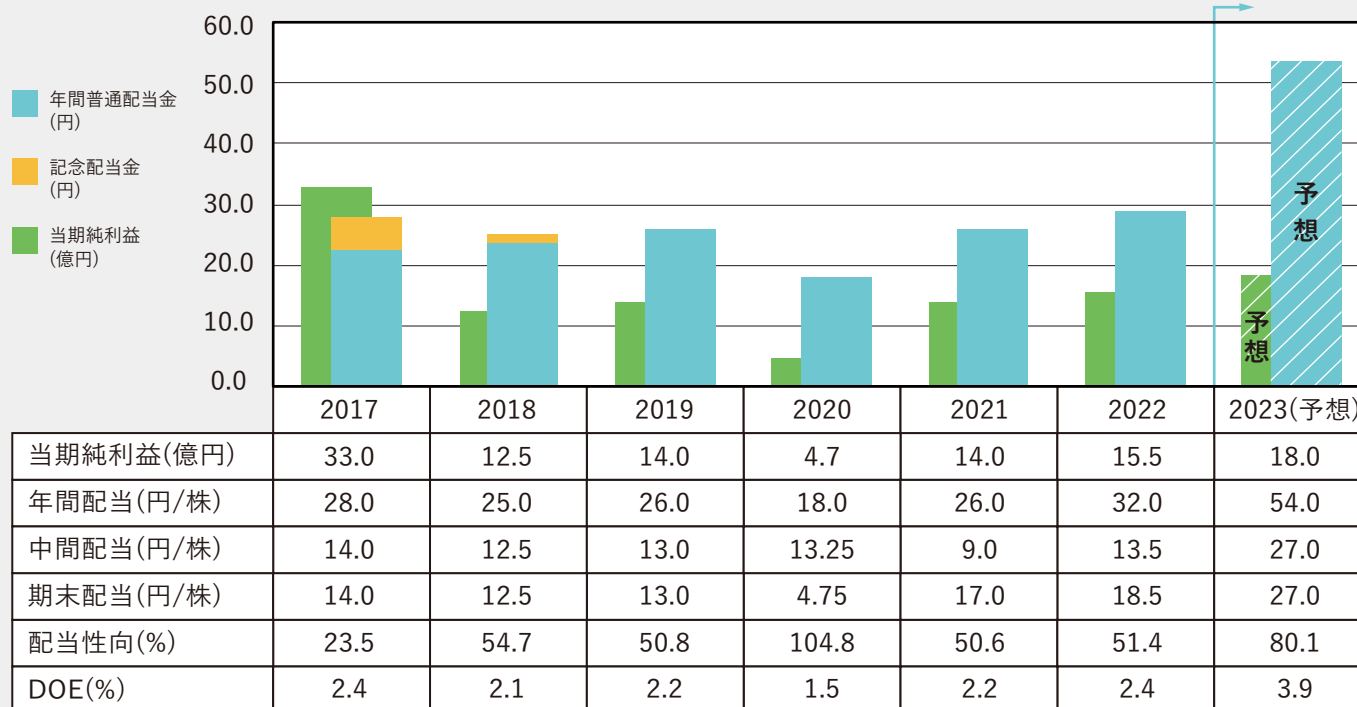
連結自己資本配当率

DOE 目標
4.0%

※ 特別な損益等の特殊要因により税引き後の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度についてはその影響を考慮し配当額を決定いたします。

配当金・配当性向・DOEの推移

2023年度より、利益配分に関する基本方針を変更



本資料のお取扱いについて

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、
当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、
完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき
当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されて
いる将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください

本資料に関するお問い合わせ先
モリト株式会社 社長室

〒541-0054 大阪市中央区南本町 4-2-4
TEL：06-6252-3559 / FAX：06-6252-3483
E-mail：ir@morito.co.jp

MORITO

あたりまえに、新しさ。